

エルニーニョ/ラニーニャ現象

・エルニーニョ/ラニーニャ現象とは？

エルニーニョ現象とは、日本から遠く離れた南米のペルー沖の海面水温が平年より高い状態が続く現象です。これとは逆に、ラニーニャ現象は、この海域の海面水温が平年より低い状態が続く現象でそれぞれ数年に一度発生しています。エルニーニョ現象やラニーニャ現象が発生すると、数か月から1年以上にわたって継続し、日本を含めた世界各地に通常とは異なる天候が現れやすくなります。

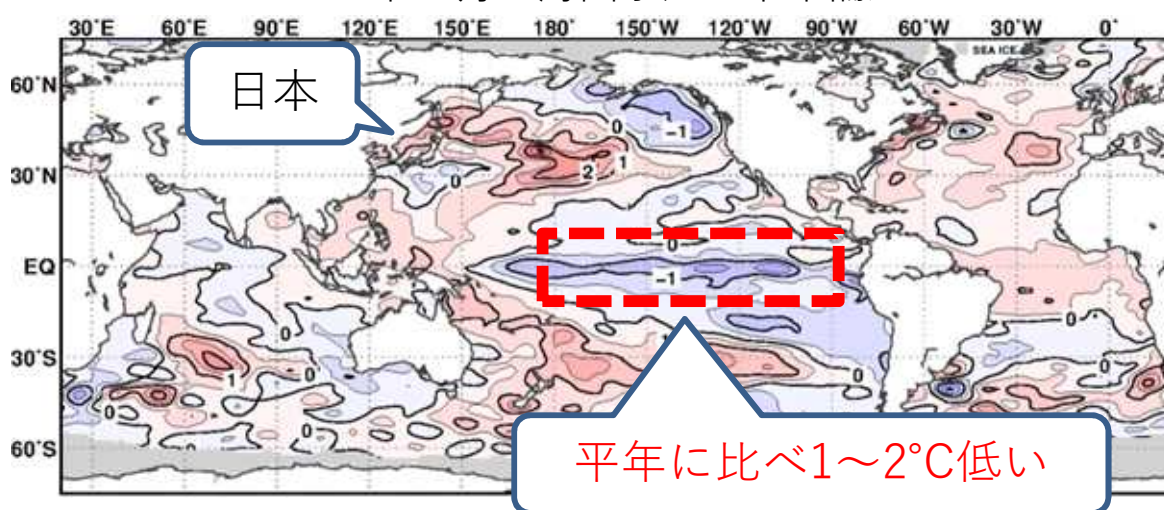
・エルニーニョ監視速報（毎月10日頃発表）

今年は10月頃からラニーニャ現象が発生しているとみられ、冬の終わりまでラニーニャ現象が続く可能性が高く（60%）、春には終息し平常の状態になる可能性が高く（80%）なっています。

・沖縄地方の天候への影響は？

沖縄地方では、ラニーニャ現象が発生しているときの冬（12～2月）は気温が下がる傾向があり、エルニーニョ現象が発生しているときの夏（6～8月）は降水量が多くなる傾向があります。最新の3ヶ月予報では、沖縄地方の2月にかけての気温は平年に比べて低くなる可能性がやや高く、ラニーニャ現象発生時の特徴があらわれています。

2021年11月の海面水温の平年偏差



防災気象情報は、テレビ・ラジオ・またはホームページから

石垣島地方気象台ホームページ <https://www.data.jma.go.jp/ishigaki/>

※ ホームページは、スマートフォン対応済みです。

お問い合わせ先：石垣島地方気象台 電話番号：0980-82-2159

石垣島地方気象台はこちらから



気象庁マスコット
はれるん

【2021年12月号】